

展示会「戦争と大学—1931~1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学—」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月12日(水)から6月7日(土)までの間、展示会「戦争と大学—1931~1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学—」を開催しました。この展示会は1931年の満州事変から、日中戦争、太平洋戦争を経て、1945年の敗戦までの戦時下における大学の学生生活、研究、医療について、医学部史料室の所蔵品を展示したもので



展示会の様子

です。

本学の前身である官立名古屋医科大学は、1931年に設置されました。卒業アルバムには軍事教練や、野砲第三連隊見学、陸軍病院慰問、勤労奉仕のほか、松茸狩りの写真なども掲載されています。学生部会主催の講演会のポスターは、1934年の建物と木をデザインした医学講演会のものから、2年後には、「日支問題の過去と現在」など文字だけの、緊迫した時局を反映したポスターへと変わっていきます。

名古屋帝国大学が創設された1939年以降の展示資料では、澁澤元治初代総長の「我等の学園」、「五十年間の回顧」から、学生寮で総長と学生とが豚鍋をつつき合う懇談会の様子や、軍部からの要求に対して、大学は學術を以って時局に応じる教育をなす使命を持っている、と答えるなど当時の澁澤総長の考え方を随所に読み取ることができます。

空襲により被災した図書、灰塵に帰した鶴舞キャンパスの写真、市民の重要な医療機関として疎開しなかった医学部附属病院の「病院防空」、「空襲に因る外傷患者の治療成績」など、当時の部外秘資料も含む多彩な展示品により、来館者に戦争について考えてもらう機会を提供できました。

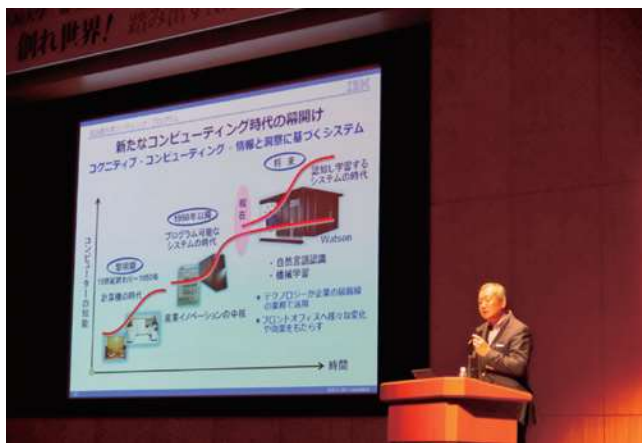
博士課程教育リーディングプログラム合同講演会・説明会を開催

●リーディング大学院推進機構

リーディング大学院推進機構は、5月17日(土)に札幌、5月24日(土)に東京、5月31日(土)に大阪の各会場において、博士課程教育リーディングプログラム合同講演会・説明会を開催しました。現在、本学で採択されている6つのプログラムが合同で開催したこの講演会・説明会では、各リーディングプログラムの紹介とともに、大学院経済学研

究科、大学院工学研究科、大学院生命農学研究科の各研究科長による本学大学院の紹介が行われました。また、各会場では、素粒子宇宙起源研究機構長である益川敏英特別教授(札幌、東京会場)、赤坂清隆前国連事務次長(札幌会場)、橋本孝之日本IBM株式会社会長(東京会場)、西澤真理子リテラジヤパン代表(東京会場)、前モンゴル大使である城所卓雄博物館特任教授(大阪会場)らによる講演が催され、大学院進学を考える学部生や、一般の来場者たちは熱心に聴き入っていました。

説明会では、各プログラムごとに個別ブースも設けられ、ポスターセッションとともにプログラムの担当教員や履修生と来場者が直接話すことにより、各リーディングプログラムの内容や学生支援の内容をより理解してもらうことができ、盛況の内に幕を閉じました。



講演会の様子